

インディアナ日本語学校便り だいごう 第30号

令和6年12月14日事務所 317-255-1631 メール ijls@indiana-j-school.net

(HP) <http://www.indiana-j-school.net> 校長 森 勝義

「第10回高等部弁論大会」

～作品紹介～

校長 森 勝義

11月23日発行学校だより28号で「第10回高等部弁論大会」が開催されましたことを紹介しました。28名が参加した大会の結果をお知らせします。(敬称略)

賞	学年	氏名	タイトル
最優秀賞	高1	小村 彩美	「ヘッドネーション」
優秀賞	高2	久保田 陸公	「私の提案する「福祉役」
優秀賞	高3	田上 陽翔	「生まれ持った才能を超える」
校長賞	高1	村越 諒青	「音楽は最高」
校長賞	高1	デイビス麗子	「アニマルレスキュー」
教員賞	高2	片岡 俊晴	「Chat GPT はよく書ける」
教員賞	高2	栗原 明衣	「私の将来とどう向き合うか」
奨励賞	高1	近藤 祐太	「緊張」
奨励賞	高1	ポリック颯	「日本のヒップホップを変化した男」
奨励賞	高1	板垣 優奈	「小さな命」
奨励賞	高1	片岡 真菜	「AIは完全に人間の教師の代わりになれるのか」
奨励賞	高1	野中 寿梨	「外来種と飼主としての責任」
奨励賞	高1	村林 璃子	「為替の仕組み」
奨励賞	高1	山崎 ひなた	「日本とアメリカの医療の違い」
奨励賞	高2	岩谷 醒樹	「最新テクノロジーを活用した審判技術」
奨励賞	高2	服部 隼人	「国際情勢と物価上昇」
奨励賞	高2	樋口 イーサン 宗谷	「戦争における傍観者の責任について」
奨励賞	高2	黒塚 美咲	「異なる視点や主張を理解すること」
奨励賞	高2	鈴木 香穂	「私たちはどう向き合うべきかフェイクニュースの時代に」
奨励賞	高2	野田 唯花	「合唱から見えた事」
奨励賞	高2	本田 末和	「女性パイロットにおける航空機の座席の課題」
奨励賞	高3	河野 龍畝	「大学の決め方」
奨励賞	高3	近藤 孝太	「SNSと健康について」
奨励賞	高3	村林 洋基	「水プラスチックペットボトル」

奨励賞 高3 浅場 理未

「MBTI 診断：Z 世代におけるコミュニケーションの新しい形」

奨励賞 高3 梅村 彩音

「日本の未来のエネルギー」

奨励賞 高3 デイビス鞠子

「音楽の変革力」

随時紹介します。

論文紹介 最優秀賞 高1 小村 彩美 「ヘアドネーション」

「今日はヘアドネーションについて話したいと思います。はじめにヘアドネーションとは、自分の髪の毛を寄付して、その髪の毛を使用して医療用ウィッグを作るための活動です。

私がこのテーマを選んだ理由は多くの人にヘアドネーションと言う活動を知ってもらい、ぜひ参加して欲しいと考えたからです。

次にヘアドネーションの利点についてお話しします。ヘアドネーションは病気と闘う子供たちへ向けての具体的な支援となります。それはがんや脱毛症などにより髪を失った子供達にとって医療用ウィッグは外見の回復だけでなく、その子供達が自信を取り戻すための一歩に繋がります。もしがんなどの病気で髪を切らなければいかなかった時、もし病気が完治してもそのまま社会復帰ができますか？確かにおしゃれとして坊主を楽しむことができたら幸いでしょうしかしそれができる人はそう多くありません。ただでさえ病気で大変だったのにそのあとも髪が生えるまでみんなと違うと言うことが起こってしまいます。そこで、医療用ウィッグがあれば社会への復帰が楽になるのではないのでしょうか？なぜなら、その子供達は普通の子供と同じように学校生活を送ることができるからです。このように私たちの髪が誰かの希望となることのできるのです。

実際私は日本で小学 3 年生の頃にヘアドネーションをやっており、来年ぐらいにまたヘアドネーションをやりたいと思っています。ヘアドネーションのやり方としては、31 センチ以上の髪を束にしてカットし、それをヘアドネーション活動をしているところに送ります。それだけです。日本では、Japan hair donation and charity という事務局が有名です。また日本では美容院でやってくれるところもあります。アメリカも同様にヘアドネーション用の髪を切ってくれる場所があり、比較的簡単に寄付することができます。

ヘアドネーションの課題については、ヘアドネーションへの認知の少なさ、知っていても髪を切ることに對しての抵抗感や、髪を 31 センチ以上伸ばすことへの難しさがヘアドネーションをする上での障害となっています。ヘアドネーションは、髪の毛を寄付するだけではなく、病気と闘う子どもたちへの大きな支援であり、私たちの思いやりを体現する活動です。私たちのような高校生が今簡単にできる活動であり、たくさんの人の心理的負担を減らすことができます。この活動に参加することで、良い社会を築く一助となると信じています。小さな行動が、誰かの人生を大きく変える力を持っています。

これから、ヘアドネーションがもっと広がって、身体的な支援だけでなく、心理的にも支援ができ、思いやりの溢れる世界になって欲しいと思っています。」

優秀賞 高2 久保田 陸公 「私の提案する「福祉役」」

「日本には少子高齢化というすぐにでも解決しなくてはならない問題があります。政府は多くの対策をしましたが、なかなか根本的な解決にはつながっていません。私たちは安心して子育てがしたいし、安心して老後を迎えたいと思っています。しかし、子育ても老後もお金がとてもかかります。誰もが避けて通れないのに、安心した施設や十分な人材が足りないとも言われています。

現在、福祉の現場で人が足りていない理由は、志願者の低さにある。厚生労働省によれば、平成 29 年度の調査で 88.5%もの福祉関連の事業所が、「新たな採用が困難である」と回答している。日本の介護や保育の現場では、人手不足が原因で業務内容はより過酷になり、離職率が高くなり、志願者が減っていくという悪循環にある。

そこで私が考えた打開策が、「福祉役」だ。「福祉役」とは、いわば兵役の福祉バージョンである。福祉役とはいっても、兵役のように満 20 歳以上を全員徴兵する訳ではない。文部科学省の統計によれば、令和 5 年 3 月の大学卒業者数は 590162 人である。大学卒業資格を得るのに必要な単位として、1 年間の福祉施設での研修を義務化する。福祉役のターゲットは、社会に出る前の力のある学生だ。そこで、大学生を福祉に従事させることで、その人手不足を解消しようという発想である。まず、学生はどのような福祉施設で、保育所か介護施設のどちらで実習したいのか決める。学生達はそれぞれの現場に必要な講習を受け、その後 1 年間の「福祉役」に従事する。若く力のある大学生が福祉の現場に投入されれば、人手不足の解消と労働環境の改善が期待できる。また、福祉の仕事に関わることで、将来そういった介護士や保育士を目指す人を増やす事にも期待できる。福祉役の過程で得た知識や評価は、就職面接などの福祉以外の場でも活かせるはずである。また、地方の福祉施設に研修しに来る若者が増えれば、地域の活性化につながる。さらに、若い学生は福祉役の過程で色んな世代の人間と関わる機会を得る。若いうちに自分とは違う価値観を持つ世代の人間と交流を持つことで、福祉役に参加した人たちの道徳心や人間性の向上も期待できるだろう。そうやって培われた経験は、やがて国際的に活躍できる力になるだろう。

私は、このように、少子高齢化の根本的解決のために「福祉役」の検討導入を提案します。若者への教育も含まれるこの「福祉役」は若い時から子育てから老後までの「福祉」を体験し理解することで社会が一丸となって少子高齢化の問題へ取り組み解決につながることを期待しています。」

優秀賞 高3 田上 陽翔 「生まれ持った才能を超える」

「高校一年生の時、僕は弁論大会で目標をテーマに発表しました。今回はその続きとして、努力をテーマに発表したいと思います。

目標を達成をする時には、挫折することもあるでしょう。そんな時には、努力することが重要です。二年前、現地校でアーチェリー部に入部しました。数ヶ月間経つとコツを掴んできて、中心を射ることもできるようになりました。しかしある日、撃っても狙ったところに入らず、いわゆるスランプ状態に陥りました。そこで、スランプを克服するために試行錯誤を始め、撃つ時のフォームを見直し、矢が完全に飛んでいくまで弓を持つ方の腕と手に集中することにしました。そうすることで、矢がブレずに狙ったところを射ることに成功しました。この努力は腕と手に集中するという些細な事でしたが、その小さな気づきと改善が、自分のスキルを向上させる、大きな一歩だったと実感しています。

スランプを乗り越えていく中で、努力がいかに重要であるかを改めて感じました。しかし、努力にも限界があるのではないかと感じる時があります。そんな時に思い出すのは、「トンビが鷹を産む」ということわざです。とあるテレビ番組で、ことわざ通り「親が平凡な東大生は居るのか」という検証をしていました。結論として存在したのだが、その東大生は、「子供は最初から優れていたのではなく、もとは平凡な子供のトンビが、親のトンビの良い教育のおかげで、鷹のような出来の良いトンビとなったのかなと思います。」とコメン

トしていました。努力が元々の才能を超えたという解釈です。これらのことから、才能とは生まれながらして持つ能力を指しますが、努力を継続することでその「生まれ持った才能」を超えられると気づきました。

最後に、「才能」の解釈は人それぞれですが、僕は努力によって得た能力も才能と呼べるのではないかと考えます。今後は生まれ持った才能を超えるために、努力を積み重ね、そして、その努力によって得た才能をも越えて行こうと思います。みなさんも努力をして行きましょう。」

12月7日作品 土曜パラダイスで紹介
 小学2年2組 後藤 楓 「すきな人 ギャップを見せて モテモテに」
 中学3年 バスケ部エース 「朝6:00 -10℃ 寒すぎる」
 小学3年2組 川端 岳 「弟は いつもやさしい うれしいな」
 中学2年 中2ガール 「友帰国 悲しすぎて 泣きそうだ」
 小学6年1組 古川 明伊那 「6年生 気づけば後半 さびしいな」

ダジャレコーナー

小学1年1組 読み人知らず 「チーターがオチーター」
 小学3年1組 さくらいそう 「さくらがさく」
 小学3年3組 北川 ゆま 「ばったがいばった」
 小学3年2組 服部 セリカ 「チョコを ちょこっと 食べましょう」

学校だよりに掲載

小学6年2組 小森 都宥子 「サンタさん プレゼント100個 くないか」
 小学3年1組 角野 ゆほ 「日本にねー みんなに会うため かえったよ」
 小学6年2組 久保田沙羅 「サンタさん 校内歩く 鈴の音」



ヒゲ森の言葉の森・探検



はがん いっしょう

破顔一笑

顔をほころばせて、にっこり笑うこと。「破顔」は顔をほころばせて笑うこと。「一笑」は軽く笑うこと。

コミュニケーションにおいて、最も大切なことは、語られていないことを聞くことである。

ピータ・ドラツカー

1909年〜2005年。アメリカの経営学者。

相手が言葉にしていることは考えていることの一部に過ぎない。相手の本音を聞き出し理解する努力をしよう。